

問題 次の文章の内容をふまえ、日常生活の中での日本語の使用について、あなたの考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で記しなさい。なお、適切な題目も付けること。

「こんにちは」ということばがある。我々が毎日の生活の中で、何度となく使うし、一年の間に、あるいは一生の間には、何千回、何万回と使うであろうことばである。また、他の人が使っているのもそれ以上に数多く耳にしているはずである。このように、「こんにちは」ということばを我々はふだん何気なく使っているが、一体どんな意味で使っているか、また、一体どんな場合にこのことばを使っているのか、ということ一度でも反省してみたことがあるだろうか。

たとえば、もし外国人に、

『こんにちは』ということばは、いつ使うんですか。」

という質問をされたら、どうであろうか。恐らく多くの人は、まず最初に、類似のあいさつの表現である、「おはよう(ございます)」あるいは「こんばんは」などのことばと並べてみる。そして、

『おはよう』というのは朝のあいさつである。『こんにちは』というのは昼間のあいさつである。」

という答えを引きだすであろう。もしその質問者がさらに突っ込んで、

「一体何時頃までが朝なのですか、また、何時頃からが昼なのですか。」

ということまできいてきたとすると、今度は誰もが、一様に、答えを搜し出すのに悩むであろう。ある人は、

「午前十時頃までが朝だ。」

と答えるであろうし、またある人は、

「十一時、いや、十二時直前までが朝なのだ。」

と考えるであろう。あるいは、「おはよう」というあいさつに対して別の知識がある人の場合なら、

「特殊な世界、たとえば、マスコミの世界や芸能界などでは、夕方であっても最初に出会った時には『おはよう』が使われることがある。」

ということを思いつくであろう。

ここまででは、恐らく大部分の人が考えつくことであるし、個人差は多少存在してはいるが、ともかく、「おはよう」は朝のあいさつで、「こんにちは」は昼のあいさつだ、という結論が得られるに違いない。

しかし、問題は、これで「おはよう」ということばや「こんにちは」ということばが適切に使えるための説明が出来たわけではない、ということである。もう少しよく考えてみて、時間ではなくて、一体誰に対してこれらのことばが使用されるのか、ということを考えつく人はそう多くないであろう。

「おはよう」と「こんにちは」が使われる対象は明らかに異なっている。自分自身の言語活動を反省してみればはっきり分かるはずである。具体的な人物を思い浮かべてみると、朝起きた時、家族に対して、我々は「おはよう」ということばを使うか、使わないか、外へ出て、近所の人に対してはどうであろうか、職場の同僚に対してはどうであろうか。一方、「こんにちは」ということばを、たとえ時間的に昼間であったとしても、両親や子供に対して使うことがあるだろうか、近所の人に対してはどうであろうか、また、職場の同僚に対してはどうであろうかと考えてみると、そこに、時間だけでは律し切れない別のルールが存在することに気づくはずである。

両親に対して、「おはよう」「おはようございます」と、その表現の型はどちらであっても、そのことばの使用は許される。しかし、両親に対して、たとえば仕事に出ていて昼に帰宅した父親に対して、「こんにちは」と言うことはないのである。